



2011年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2010年10月
大阪ガス株式会社

I. 11.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・篠山都市ガス・豊岡エネルギーは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

ただ今から、2011年3月期 第2四半期決算と通期見通しについて、ご説明させていただきます。

11.3期第2四半期決算のポイント

■ 概況

- **連結売上高**： 景気回復に伴うガス販売量の増加、泉北天然ガス発電所の全基稼働、不動産事業をはじめとする連結子会社の売上増加等によって、**前年比8.1%増収の5,421億円**。
- **連結営業利益**： 電力事業利益の増加はあるものの、LNG価格上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少することから、**前年比42.0%減益の358億円**。
時期ずれ差損は69億円発生(前年の時期ずれ差益は312億円)。

■ ガス販売量

- **家庭用**： 第1四半期の気温・水温が前年より低く推移したことから、**前年比2.4%増加の850百万m³**。
- **業務用**： 景気回復に伴うお客さま設備の稼働増加等によって、**前年比9.1%増加の2,892百万m³**。

■ 株主還元

- 中間配当は、**0.5円/株増配**の、**4円/株**を決定。
- **200億円または7,200万株を上限とする自己株式の取得**を決定。

2011年3月期 第2四半期は、増収・減益の決算となりました。

連結売上高は、景気回復に伴うガス販売量の増加や、泉北天然ガス発電所の全基稼働に加え、不動産事業をはじめとする連結子会社の売上増加等によって、前年と比べて8.1%増収の5,421億円となりました。

連結営業利益は、泉北天然ガス発電所の全基稼働に伴う電力事業利益の増加はあるものの、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少することから前年と比べて42.0%減益の358億円となりました。なお、時期ずれ差損は69億円発生しています。

ガス販売量については、家庭用が、第1四半期の気温・水温が前年より低く推移したこと等から、前年を2.4%上回る8億5,000万m³となりました。

業務用は、景気回復に伴うお客さま設備の稼働増加等によって、前年を9.1%上回る28億9,200万m³となりました。

株主さまへの還元につきまして、2011年3月期は、1株あたり1円の増配を目指すことを、4月に発表いたしました。この方針に沿って、中間配当を、1株あたり0.5円増配の4円とすることを決定しました。

また、株主さま価値の向上と資本効率の向上を目的として、200億円または7,200万株を上限とする、自己株式の取得を実施することにしました。

11.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 11.3期2Q	B. 10.3期2Q	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	6,990	6,953	+37	+0.5%
	新設工事件数(千件)	33	35	-2	-5.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	24.4	23.9	+0.6	+2.3%
	家庭用	850	830	+20	+2.4%
	商・公・医療用	845	798	+47	+5.9%
	工業用	2,047	1,852	+195	+10.5%
	業務用計	2,892	2,650	+242	+9.1%
	他ガス事業者向け	231	206	+25	+12.1%
	(うち大口供給)	(2,448)	(2,231)	(+217)	(+9.7%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	3,973	3,686	+287	+7.8%
連結ガス販売量	3,991	3,703	+288	+7.8%	

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

4

2011年3月期 第2四半期のガス販売実績について、ご説明します。
大阪ガス個別のガス販売量は、前年を7.8%上回る39億7,300万m³となりました。

家庭用は、夏場の猛暑の影響はありましたが、第1四半期の気温・水温の影響や、お客さま数の増加により、前年を2.4%上回る8億5,000万m³となりました。

商業・公・医療用は、猛暑による夏場の空調需要の増加や、新規需要開発等により、前年を5.9%上回る8億4,500万m³となりました。

工業用は、景気回復に伴うお客さま設備の稼働増加や、新規需要開発等により、前年を10.5%上回る20億4,700万m³となりました。これは、一昨年の約93%の水準にとどまりまっております、景気は回復しつつあるものの、まだ回復途上にあると考えています。

ご参考資料として、23ページに工業用ガス販売量の月別の推移を示しておりますので、あわせてご覧下さい。

11.3期第2四半期実績 I

連結：億円、()内は連単倍率

	A. 11.3期2Q	B. 10.3期2Q	A-B	A-B/B(%)	備考
売上高	(1.31) 5,421	(1.32) 5,016	+404	+8.1%	ガス販売量の増加、 電力事業収益の増加、 不動産子会社売上増加等
営業利益	(1.80) 358	(1.31) 617	-259	-42.0%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(1.64) 346	(1.24) 600	-254	-42.3%	持分法投資利益の増加
当期純利益	(1.41) 190	(1.20) 368	-178	-48.4%	
SVA	35	200	-165	-82.5%	

		A. 11.3期2Q	B. 10.3期2Q	A-B
連結ガス販売量	百万m ³	3,991	3,703	+288
時期ずれ差損益	億円	-69	312	-382
為替レート	円/\$	88.9	95.5	-6.6
原油価格	\$/bbl	78.9	61.8	+17.0
連結子会社数		130	131	-1

11.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC Design Your Energy 夢ある明日を

2011年3月期 第2四半期の決算数値をお示しします。

先にご説明しました通り、売上高は、前年と比べて404億円増加の5,421億円に、営業利益は、前年と比べて259億円減少の358億円となりました。

下の表にありますように、前年は時期ずれ差益が312億円あった一方で、今年は時期ずれ差損が69億円発生し、差し引き382億円変動しています。これらの影響を除いて考えると、今年の営業利益は122億円の増益となり、実力ベースの利益水準は、着実に高まりつつあると考えています。

11.3期第2四半期実績 II

連結:億円	A. 11.3期 2Q末	10.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	13,914	14,395	14,838	-924	現預金の減少等
自己資本	6,600	6,564	6,666	-66	
有利子負債	5,246	5,459	5,390	-143	長期借入金の減少
在籍人員	19,785	19,287	19,268	+517	
自己資本比率	47.4%	45.6%	44.9%	+2.5%	
	A. 11.3期2Q	B. 10.3期2Q		A-B	備考
設備投資	312	408		-96	泉北発電所建設・LNG船建造の終了
減価償却費	479	458		+21	泉北発電所減価償却費の増加
フリーキャッシュフロー	-113	1,012		-1,126	
ROA	1.3%	2.5%		-1.2%	
ROE	2.9%	5.8%		-2.9%	
EPS (円/株)	8.8	17.1		-8.2	
BPS (円/株)	307.3	305.6		+1.7	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出 *Design Your Energy* 夢ある明日を

6

 OSAKA GAS

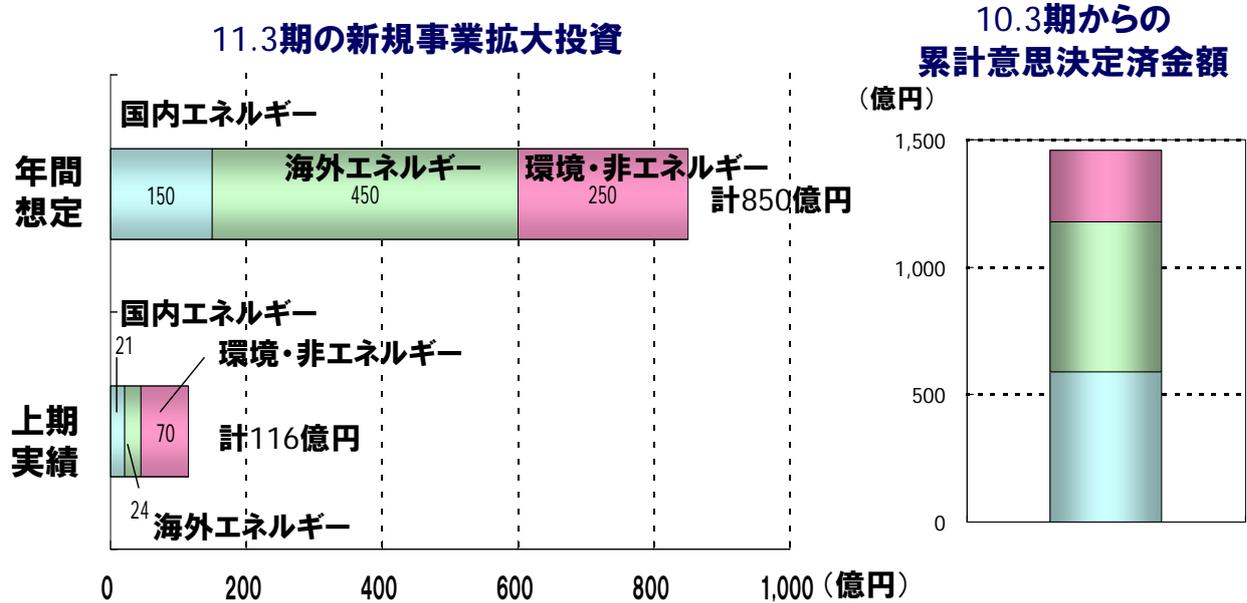
資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

設備投資については、泉北天然ガス発電所の建設やLNG船の建造が、前年に終了したことから、前年を96億円下回る312億円となりました。

減価償却費については、泉北天然ガス発電所の全基稼動に伴い、前年を21億円上回る479億円となりました。

11.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- 11.3期上半期に、スペイン・サグントLNG基地への投資を意思決定。
- 10.3期からの累計意思決定済金額は約1,500億円。



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なる。

新規事業拡大投資については、2011年3月期上半期に、合計116億円の投資を実行しました。

年間の想定額に対する支払いベースでの投資の進捗率は高くありませんが、2011年3月期上半期には、スペインのサグントLNG基地への投資を意思決定するなど、2010年3月期からの累計意思決定済金額は、約1,500億円に及んでおり、中長期経営計画で掲げた新規事業拡大投資計画は、順調に進捗していると考えています。

11.3期見通し I

連結：億円、()内は連単倍率

	A. 11.3期 見通し	B. 10.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.30) 11,700	(1.30) 10,966	+733	+6.7%
営業利益	(1.63) 845	(1.51) 911	-66	-7.3%
経常利益	(1.51) 800	(1.32) 848	-48	-5.7%
当期純利益	(1.34) 450	(1.21) 483	-33	-7.0%
SVA	124	140	-15	-11.1%
連結ガス販売量 百万m ³	8,424	8,150	+273	
時期ずれ差損益 億円	-73	267	-341	
為替レート 円/\$	86.7	92.9	-6.1	
原油価格 \$/bbl	81.7	69.4	+12.3	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

続いて、今回修正を行いました2011年3月期通期の見通しについて、ご説明します。

売上高は、前年を6.7%上回る1兆1,700億円、営業利益は、前年を7.3%下回る845億円、経常利益は、前年を5.7%下回る800億円を想定しています。

11.3期見通し II

連結:億円	A. 11.3末見通し	B. 10.3末実績	A-B
総資産	14,776	14,838	-62
自己資本	6,705	6,666	+38
有利子負債	5,497	5,390	+106
在籍人員	19,546	19,268	+278
自己資本比率	45.4%	44.9%	+0.4%

	A. 11.3期見通し	B. 10.3期実績	A-B
設備投資	836	982	-145
減価償却費	984	954	+30
フリーキャッシュフロー	595	1,754	-1,158
ROA	3.0%	3.3%	-0.3%
ROE	6.7%	7.6%	-0.8%
EPS (円/株)	21.1	22.5	-1.3
BPS (円/株)	323.0	310.4	+12.6

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

こちらでは、資産・負債項目や、主な財務指標の見通しを、ご確認下さい。

11.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 11.3期 見通し	B. 10.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,014	6,980	+34	+0.5%
	新設工事件数(千件)	76	85	-9	-10.5%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.5	32.3	+0.2	+0.6%
	家庭用	2,259	2,244	+16	+0.7%
	商・公・医療用	1,576	1,543	+33	+2.1%
	工業用	4,086	3,877	+208	+5.4%
	業務用計	5,662	5,420	+241	+4.4%
	他ガス事業者向け	471	455	+16	+3.4%
	(うち大口供給)	(4,801)	(4,576)	(+225)	(+4.9%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,392	8,119	+272	+3.4%
連結ガス販売量	8,424	8,150	+273	+3.4%	

Design Your Energy 夢ある明日を

 OSAKA GAS

ガス販売量については、大阪ガス個別の合計で、前年を3.4%上回る83億9,200万m³を見込んでおり、いずれの用途でも前年を上回る見通しです。

11.3期見通し(当初見通しとの比較)

		今回見通し	当初見通し	差	備考
下期の 前提諸元	為替レート 円/\$	85	95	-10	10月は82.5円/\$
	原油価格 \$/bbl	85	80	+5	10月は\$82.5/bbl
ガス 販売量 (45MJ/m ³)	家庭用	(1,410)	(1,447)	(-37)	猛暑の影響を織り込み
		2,259	2,282	-22	節約傾向を織り込み
	業務用 その他	(3,008)	(2,923)	(+85)	上期実績を踏まえた 上ぶれを織り込み
収支 (億円)	売上	11,700	11,750	-50	下記差異分析参照
	経常利益	800	655	+145	下記差異分析参照

(注)ガス販売量の上段()内は、11.3期下期の数値(内数)。

【売上差異】 個別:-50億円
 ・ガス売上高 -62億円
 ・その他売上高 +12億円
 連結-個別:±0億円

【経常利益差異】 個別:+110億円
 ・ガス粗利益 +50億円
 ・その他事業差益 +50億円
 ・営業外収支 +10億円
 連結-個別:+35億円
 ・持分法利益 +8億円

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

今回の主な修正点を、当初見通しとの比較でまとめたのが、こちらです。

下期の前提諸元については、原油価格を当初見通しの1バレル80ドルから1バレル85ドルとし、為替レートを当初見通しの1ドル95円から、1ドル85円としています。

ガス販売量について、家庭用では、猛暑により9月の気温・水温が高く推移した影響や、省エネ・節約の傾向を織り込み、下期は当初見通しを3,700万m³下回ると想定しています。通期では、2,200万m³の下方修正となります。

業務用その他は、上期が当初見通しを上回っていることを踏まえ、下期も当初見通しを8,500万m³上回ると想定しています。通期では2億4,300万m³の上方修正となります。

売上については、前提諸元を変更したことに伴い、ガス販売単価が下落し、ガス売上高が減少すること等から、当初見通しを50億円下回ると想定しています。

経常利益について、大阪ガス個別では、ガス粗利益の増加、電力事業や器具販売等のその他事業利益の増加、営業外収支の増加等により、当初見通しを110億円上回ると想定しています。さらに持分法利益や連結子会社の利益が、当初見通しを35億円上回ることから、連結合計では、当初見通しを145億円上回ると想定しています。

スペイン・サグントLNG基地事業への出資

- スペイン・サグントLNG基地の20%持分を取得することについて、スペイン大手電力会社エンデサ社(Endesa, S.A.)との間で合意。
- サグントLNG基地は2006年4月に運転開始しており、気化能力は640万トン/年(760万トン/年まで拡張工事中)。
- 政府の規制下で一定の事業報酬が保証されており、長期にわたる安定的な収益が見込まれる。



Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

最後に、2011年度3月期 上半期に発表した中から、いくつかの案件についてご説明させていただきます。

当社は、2010年5月、スペイン・サグントLNG基地の20%の持分を取得することについて、スペインの大手電力会社エンデサ社との間で合意いたしました。

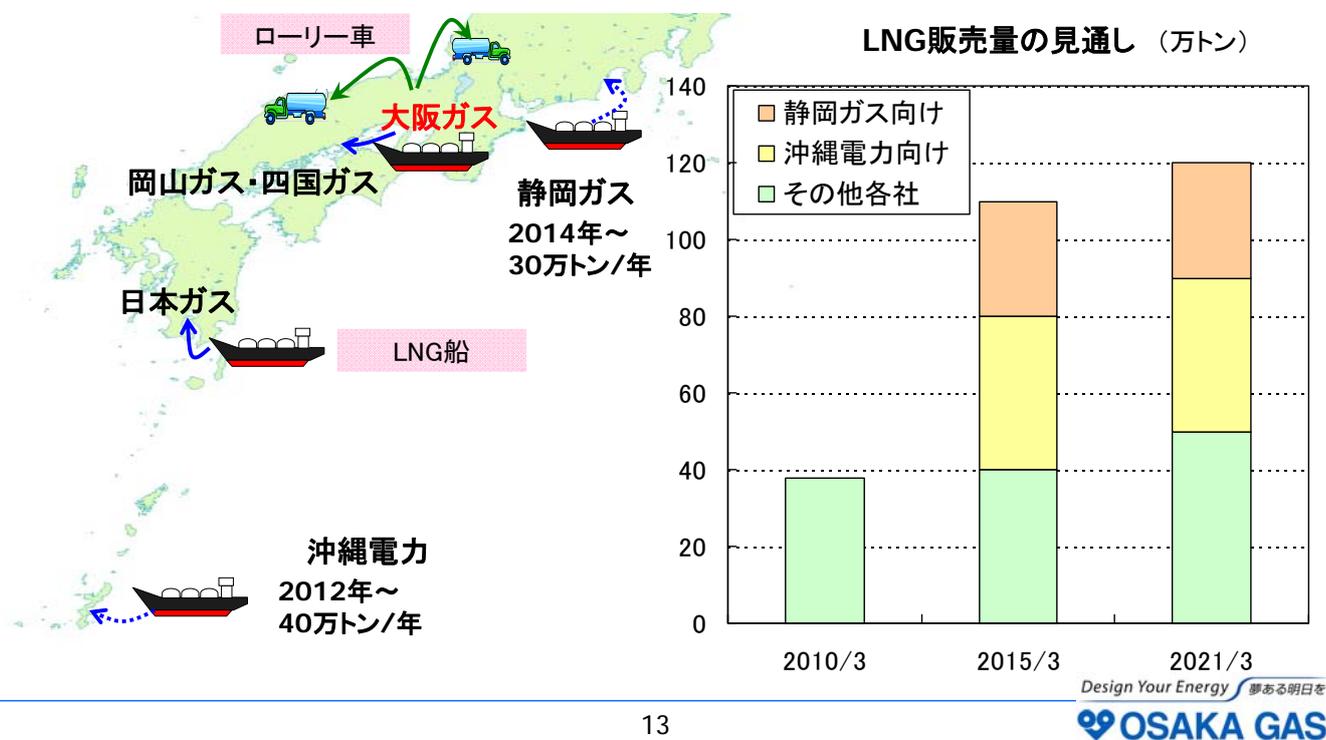
サグントLNG基地は、スペイン東部のバレンシア州に位置する、気化能力が年間640万トンのLNG受入基地であり、既に運転を開始しています。

スペインにおけるLNG基地事業は、政府の規制の下で、一定の事業報酬が保証されており、今回の事業参画により、長期にわたる安定的な収益が見込まれます。

今後は、欧州におけるLNG市場の知見を深めつつ、海外エネルギー事業の拡大を目指していきたいと考えています。

新規LNG販売契約の締結

- 2012年から年間40万トンのLNGを沖縄電力に販売。
- 2014年から年間30万トンのLNGを静岡ガスに販売。



当社は、2010年5月、沖縄電力との間で、2012年から年間40万トンのLNGを供給する契約を締結したほか、2010年6月には、静岡ガスとの間で、2014年から年間30万トンのLNGを供給する契約を締結しました。

これら2社への販売を合わせると、当社のLNG販売量は年間約110万トンに達する見通しであり、中長期経営計画で掲げた、2021年3月期におけるLNG販売量の見通しである年間120万トンに大きく近づくこととなります。

今後も、各地のエネルギー事業者と連携しながら、天然ガスインフラの整備と天然ガスの普及・拡大を進めることにより、国内広域事業の成長を図っていきたいと考えています。

自己株式取得の決定

- **以下の主旨・内容での自己株式の取得を決定
(2010年10月発表)**
 - **主旨：1株当たり指標の改善による株主還元
及び資本効率の向上**
 - **取得株式の総数：上限7,200万株
(発行済み株式総数の3.35%)**
 - **取得価格の総額：上限200億円**
 - **取得期間：2010年11月1日～2011年2月28日**
※取得株式の総数または取得価格の総額が、上記いずれかに
達した時点で取得を終了する。
 - **取得株式の取扱い：自己株式の取得がすべて終了した
段階で、取締役会決議の上、消却する予定**

最後に、2010年10月29日に発表しました、自己株式の取得計画について、ご説明させていただきます。

中長期経営計画では、自己株式取得の考え方として、将来の成長のための投資を実施した上で、財務状況やキャッシュフローに余裕がある場合に、機動的に行うことを謳っております。

今般、新規事業拡大投資が計画通りに進むことを確認し、なお、資本の蓄積により財務状況やキャッシュフローに余裕があると判断しましたので、株主さま価値の向上と資本効率の向上を目的に、自己株式の取得を実施することにしました。

自己株式の取得期間は、2010年11月1日から2011年2月28日までで、取得する株式の総数は7,200万株、取得する価格の総額は200億円とし、いずれかを上限とします。

なお、取得した自己株式は、消却する予定です。

以上で、2011年3月期 第2四半期決算と通期見通しについてのご説明を終わらせていただきます。

II. 参考資料

11.3期第2四半期の売上高差異(対10.3期)

10.3期2Q → 11.3期2Q (差異)

5,016億円 5,421億円 (+404億円)

個別:+334億円

ガス売上高 +151億円
・スライド影響 -35億円
・数量差等 +187億円

その他売上高 +182億円
・附帯収益 +175億円
・器具販売収益 +8億円

連結-個別:+70億円

アーバネックス +51億円
大阪ガスメゾン +32億円
大阪ガスケミカル -11億円

11.3期第2四半期の経常利益差異(対10.3期)

10.3期2Q → 11.3期2Q (差異)

600億円 346億円 (-254億円)

個別: -271億円

ガス粗利 -318億円
・スライト'影響 -382億円
・数量差等 +63億円

その他事業利益 +50億円
・附帯利益 +47億円

連結-個別: +16億円

出光スノーレ +14億円
(北海油田:持分法適用会社)
大阪ガスメゾン +5億円
大阪ガスケミカル -7億円

セグメント別実績

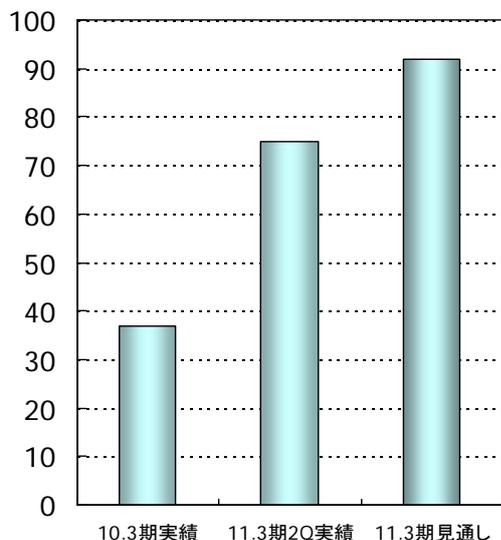
単位:億円	売上高		セグメント利益		備考
	11.3期 2Q	10.3期 2Q	11.3期 2Q	10.3期 2Q	
ガス	3,943	3,758	136	453	売上:ガス販売量増 利益:時期ずれ差益の解消
LPG・電力・ その他エネルギー	822	656	127	74	売上:附帯収益増等 利益:附帯利益増等
海外エネルギー	54	54	27	18	持分法利益増(北海油田)
環境・非エネルギー	885	818	69	57	売上:不動産子会社売上増 利益:不動産子会社利益増等
消去又は全社	-283	-270	12	14	
連結	5,421	5,016	373	618	

セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

11.3期よりセグメントを変更しており、10.3期の実績は新セグメントへの組み換えを行って場合の値を示しています。

新規事業の利益貢献

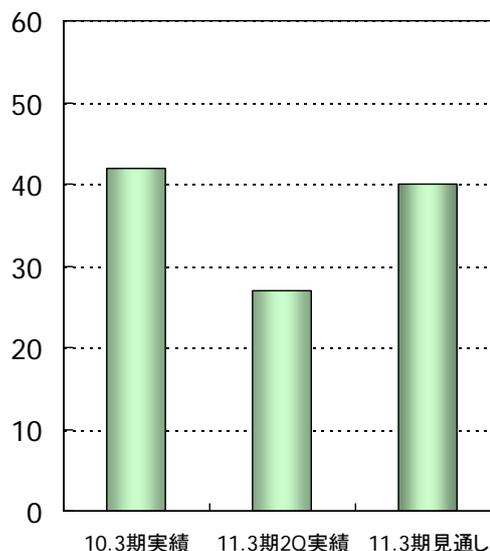
(億円) 国内電力事業



- 泉北天然ガス発電所が通年で稼働すること等から、11.3期は前年と比べて貢献利益の大幅な増加を見込む。

営業利益および持分法投資利益(のれん償却後)の合計を表示。
国内電力事業は、大阪ガスの附帯電力事業営業利益を表示。

(億円) 海外事業

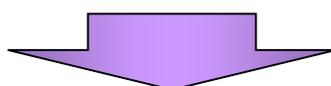


- 北海油田の利益増加を含め、11.3期は前年並みの貢献利益を見込む。

家庭用ガス販売

11.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.1%	
気温影響	+2.9%	平均気温23.6度(対前期 1Q▲1.0度、2Q+1.8度)
その他	-0.6%	
合計	+2.4%	



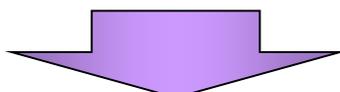
11.3期通期見通し

- 上期は当初の見通しを15百万m³上回った。
- 猛暑により9月の気水温が高く推移した影響や、景気減退による省エネ・節約の傾向を織り込み、下期は当初の見通しを37百万m³下回ると想定。
- 通期では、当初の見通しを22百万m³下回り、対前期16百万m³増の2,259百万m³と想定。

商公医療用ガス販売

11.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.5%	商業用大型物件や公用物件の新規稼動
気温影響等	+4.6%	夏場の高気温による冷房需要の増加
その他	-1.2%	お客さまの省エネルギー推進などの影響
合計	+5.9%	



11.3期通期見通し

- 上期は当初の見通しを45百万m³上回った。
- 下期は、足元の実績を織り込んだほかは、当初見通し通りで想定。
- 通期では、当初の見通しを59百万m³上回り、対前期33百万m³増の1,576百万m³と想定。

工業用ガス販売

11.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+3.6%	他燃料からのガス転換等
稼働増減等	+7.0%	お客さま設備の稼働増加等
合計	+10.6%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

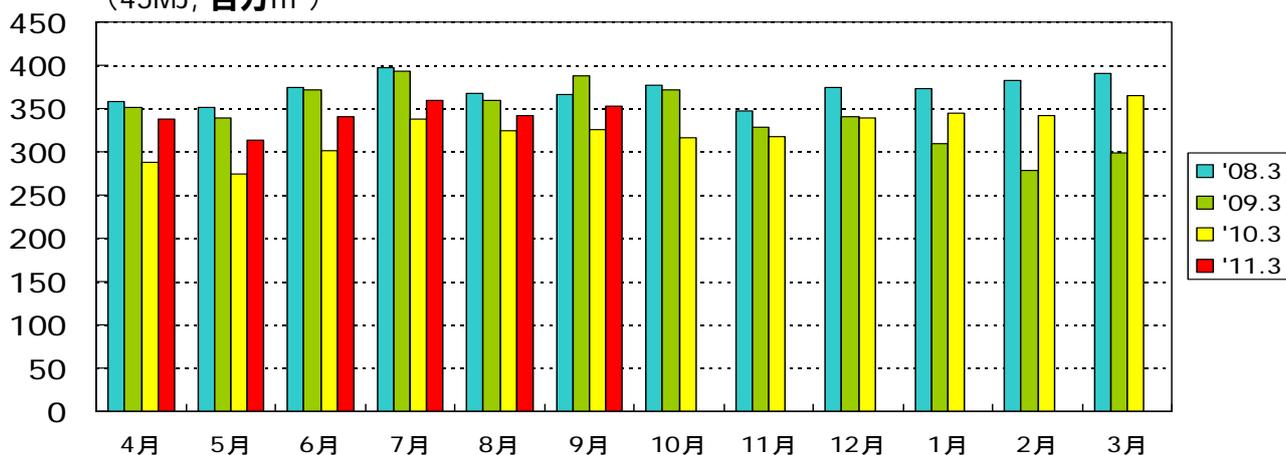
	販売量	対前期比	対前々期比
化学	566	103.3%	92.5%
金属	504	122.9%	86.7%
食品	252	103.4%	99.2%
機械	181	104.0%	81.8%
ガラス	153	130.6%	145.4%

11.3期通期見通し

- 上期は当初の見通しを94百万m³上回った。
- 下期も、上期実績を踏まえた上ぶれを織り込み、通期では、当初の見通しを154百万m³上回り、対前期208百万m³増の4,086百万m³と想定。

工業用ガス販売の月別推移

(45MJ, 百万m³)



10.3期の月別比較(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
対08.3期比	80.5	78.5	80.5	85.1	88.2	89.2	83.8	91.8	90.4	92.4	92.4	93.5
対09.3期比	82.0	81.1	81.1	86.0	90.4	84.0	85.1	96.8	99.6	111.3	122.8	122.6
11.3期の月別比較(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月						
対09.3期比	96.3	92.6	91.6	91.6	95.3	91.0						
対10.3期比	117.4	114.2	112.9	106.6	105.5	108.3						

- 2010年1月以降、前年を上回っているものの、前々年の水準には達していない。

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気温・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度下期の粗利益は5億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度下期の粗利益は10億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、連結営業外費用が年間4億円変動する可能性がある。